

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年8月号 目次

【検査結果】

農産物の残留農薬検査結果（令和3年4月～6月）	1
-------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年7月）	4
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年7月）	6
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

農産物の残留農薬検査結果(令和3年4～6月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和3年4月～6月に各区福祉保健センター及び健康福祉局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

4月には、だいこんの根4検体、こまつな及びほうれんそう各3検体、トマト2検体、かぶの根及びにんじん各1検体の計14検体について検査を行いました。5月には、トマト6検体、キャベツ2検体、かぶの根、きゅうり、こまつな、なつみかん(外果皮を除いたもの)、なつみかん(果実全体)、ばれいしょ、ブロッコリー及びほうれんそう各1検体の計16検体について検査を行いました。また、6月には、ばれいしょ5検体、にんじん3検体、キャベツ及びこまつな各2検体、きゅうり及びほうれんそう各1検体の計14検体の検査を行い、4～6月で総計44検体でした。

検査の結果を表1に示しました。こまつな及びほうれんそう各4検体、トマト3検体、かぶの根、キャベツ及びきゅうり各1検体から延べ18項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

(令和3年4～6月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
かぶの根	2	1	イミダクロプリド	0.07	0.4
キャベツ	4	1	フェンバレレート	0.02	3.0
きゅうり	2	1	クロルフェナピル	0.01	0.5
こまつな	6	4	アゾキシストロビン	0.02	15
			アゾキシストロビン	0.05	15
			テフルトリン	0.01	0.5
			メタラキシル及びメフェノキサム	0.03	1
			シアゾファミド	0.03	15
			テフルトリン	0.01	0.5
			テフルトリン	0.02	0.5
だいこんの根	4	0			
トマト	8	3	アセタミプリド	0.02	2
			クロルフェナピル	0.02	1
			ルフェヌロン	0.05	0.5
なつみかん(外果皮を除いたもの)	1	0			
なつみかん(果実全体)	1	0			
にんじん	4	0			
ばれいしょ	6	0			
ブロッコリー	1	0			
ほうれんそう	5	4	クロチアニジン	0.01	40
			シアゾファミド	0.03	25
			フルフェノクスロン	0.03	10
			テフルトリン	0.01	0.5
			テフルトリン	0.01	0.5
合計	44	14			

注) 中括弧()はそれぞれ同一検体からの検出

表 2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物							農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						
		A	B	C	D	E	F1	F2			A	B	C	D	E	F1	F2
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	○	—	—	—	○	○	—	テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
DDT(DDE,DDD,DDTの種)*	0.005	○	○	○	○	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	—	○	トリコナゾール	0.01	○	○	—	○	○	—	—
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	トリフルラリン	0.01	○	—	—	—	○	—	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
アラクロール	0.01	○	○	○	—	○	—	○	トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	—	—
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	—	○	○	—	ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	○	—	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	—
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
エボキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	—	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○	—	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○	—	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	—	—	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	—	—	フェンクロールホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	—
クロロクシロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	—	—	フサライド	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	—	—	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	—	—	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	○	—	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	—	—	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ブロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○	—	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ヘプタクロル(エボキトを含む)	0.005	○	—	—	—	○	—	○
チアメキサム	0.01	○	—	○	○	○	—	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	—	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	—	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	—	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	—	○

表 2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物							農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						
		A	B	C	D	E	F1	F2			A	B	C	D	E	F1	F2
ボスカリド	0.01	○	○	-	-	-	-	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	-	○
ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	-	-	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○	-	○
マラチオン	0.01	○	○	○	○	○	-	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○	○	-	○
マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	-	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	-	○	-	○
メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○	-	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	○	-	○
メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○	-	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○	-	○

農産物の種類 A:こまつな、トマト、にんじん、ブロッコリー、ほうれんそう、B:かぶの根、キャベツ、C:きゅうり、
D:だいこんの根、E:ばれいしょ、F1:なつみかん(外果皮を除いたもの)、F2:なつみかん(果実全体)

○:実施、-:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

ピレスロイド系殺虫剤

ピレスロイドとは、いわゆる除虫菊の花に含まれる主殺虫成分であるピレトリンとその類縁化合物の総称で、従来から蚊取り線香等の家庭用殺虫剤として利用されてきました。この天然ピレスロイドから、より殺虫範囲の大きく安価な合成ピレスロイド剤が開発され、主に農業用及び家庭園芸用として使われています。

比較的良好に検出される農薬で、今回検出されたもののうち、フェンバレレート及びテフルトリンがこのピレスロイド系殺虫剤に分類されます。また、昨年度検出されたものではシペルメトリン、ペルメトリン、フェンプロパトリンが該当します。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2016年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年7月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年7月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年7月の総アクセス数は、178,351件でした。前月に比べ19.6%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*74.6%、保健情報17.1%、生活環境衛生2.2%、食品衛生2.0%、薬事1.4%、検査情報月報1.2%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

7月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「トキソプラズマ症について」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「パラインフルエンザウイルスについて」でした。4位には、「RSウイルスによる気道感染症およびパリビズマブ(シナジス)について」が入っています。

表1 令和3年7月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	トキソプラズマ症について	10,208
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	9,641
3	パラインフルエンザウイルスについて	7,080
4	RSウイルスによる気道感染症およびパリビズマブ(シナジス)について	6,062
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	5,920
6	大麻(マリファナ)について	5,893
7	横浜市感染症情報センタートップページ	5,036
8	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	4,025
9	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,917
10	EBウイルスと伝染性単核症について	3,692

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「パラインフルエンザウイルスについて」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ha/hpiv1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年7月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 令和3年7月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
トキソプラズマ感染症について	1
インフルエンザ定点数について	1
化学物質の単位の換算について	2
ボツリヌス菌について	1
横浜市感染症発生動向調査について	1

2 追加・更新記事

令和3年7月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 令和3年7月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
7月 1日	横浜市感染症臨時情報(RSウイルス感染症、第25週)	掲載
7月 7日	熱中症情報(2021年7月5日)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第4回)	更新
7月 8日	横浜市感染症臨時情報(RSウイルス感染症、第26週)	掲載
	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
7月13日	熱中症情報(2021年7月12日)	掲載
7月15日	横浜市感染症臨時情報(RSウイルス感染症、第27週)	掲載
7月19日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第5回)	更新
7月20日	熱中症情報(2021年7月19日)	掲載
7月21日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
7月27日	熱中症情報(2021年7月26日)	掲載
7月29日	横浜市感染症臨時情報(RSウイルス感染症、第29週)	掲載

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年7月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が第25週以降増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状態が続いています。
- RSウイルス感染症の報告は依然として多い状態が続いており、今後とも注意が必要です。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈7月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	21件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
ウイルス性肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	梅毒	14件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が9件(うち4件が無症状病原体保有者)、O26が6件(うち2件が無症状病原体保有者)、O111が3件(すべて無症状病原体保有者)、O不明が3件(うち1件が無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症3件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 ウイルス性肝炎: CMVの報告が1件ありました。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSが2件、無症状病原体保有者3件、その他1件の報告がありました。性的接触(同性間5件、同性間および異性間1件)による感染が推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回有)ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の報告が3件(ワクチン接種歴4回有が2件、ワクチン接種歴3回有が1件)ありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、晩期顕症梅毒2件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。男性10件、女性4件で、うち9件は性的接触(異性間8件、詳細不明1件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第25週～第29週に横浜市から報道発表のありました症例は4,582件でした。

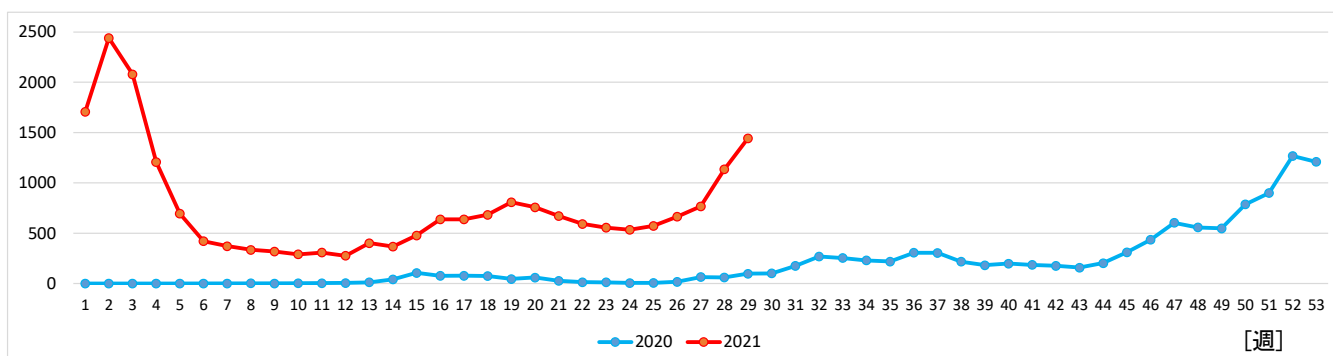
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

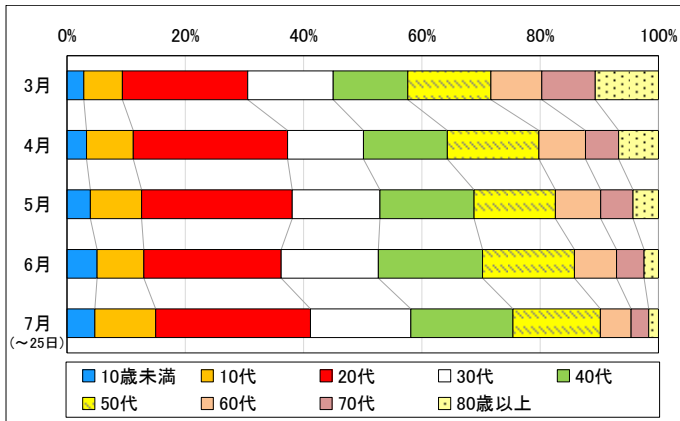
◆ 変異株の検出状況: 神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r6476099.html>

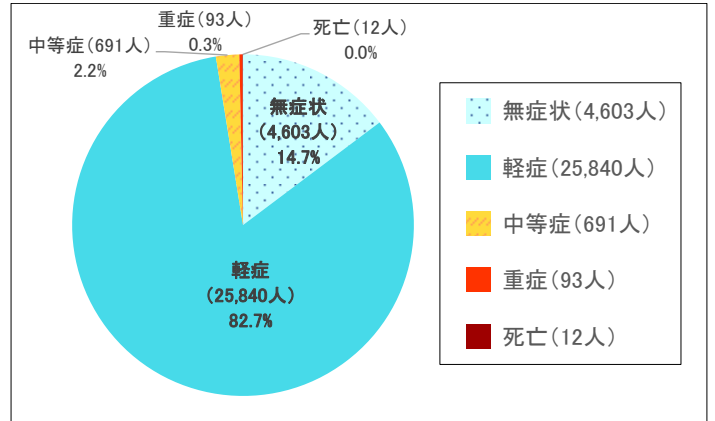
1 報告数の推移



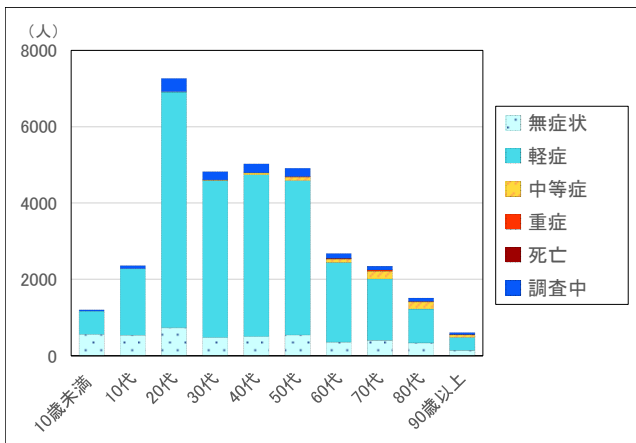
2 年齢別割合



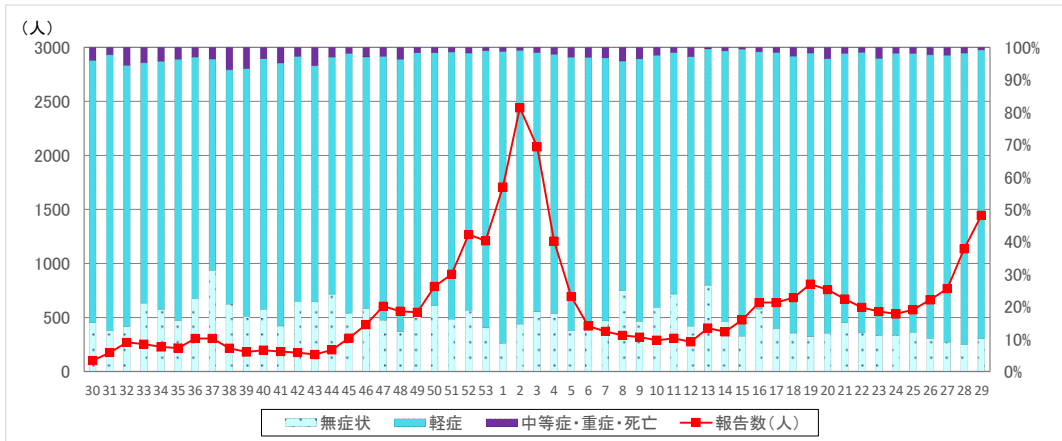
3 陽性確定時の症状の割合



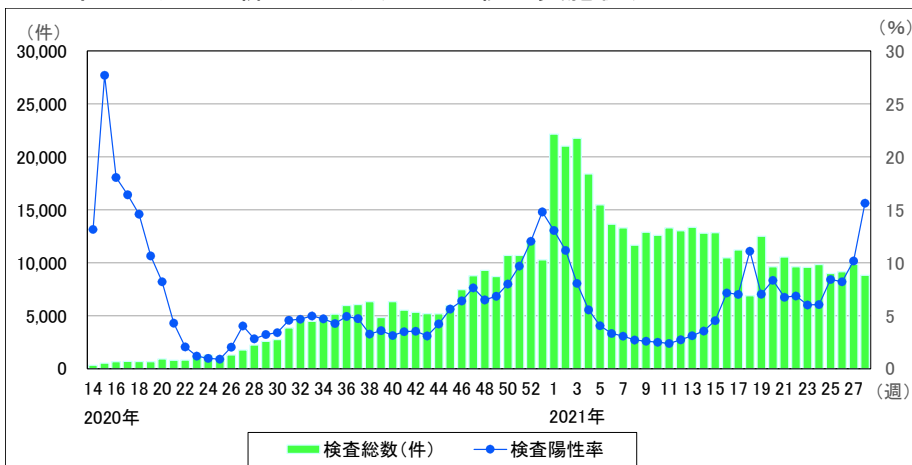
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の症状



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況

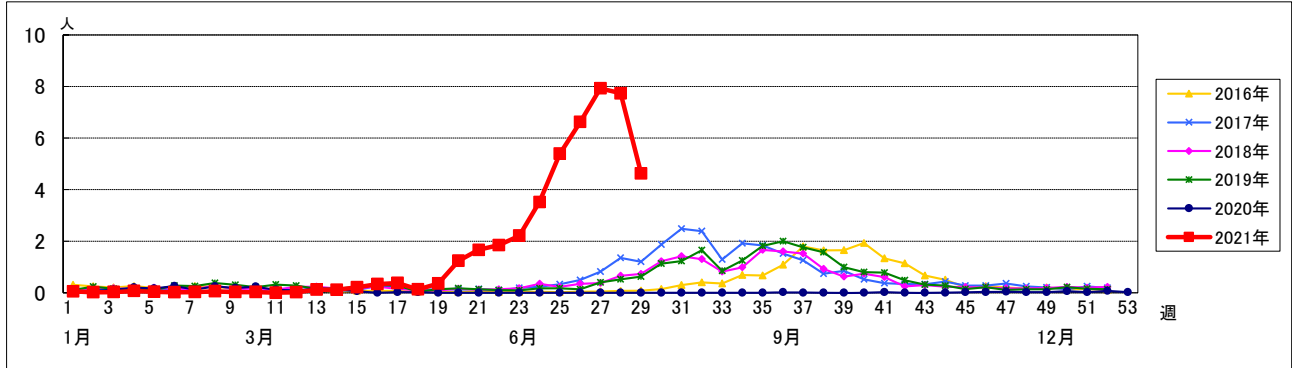


※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

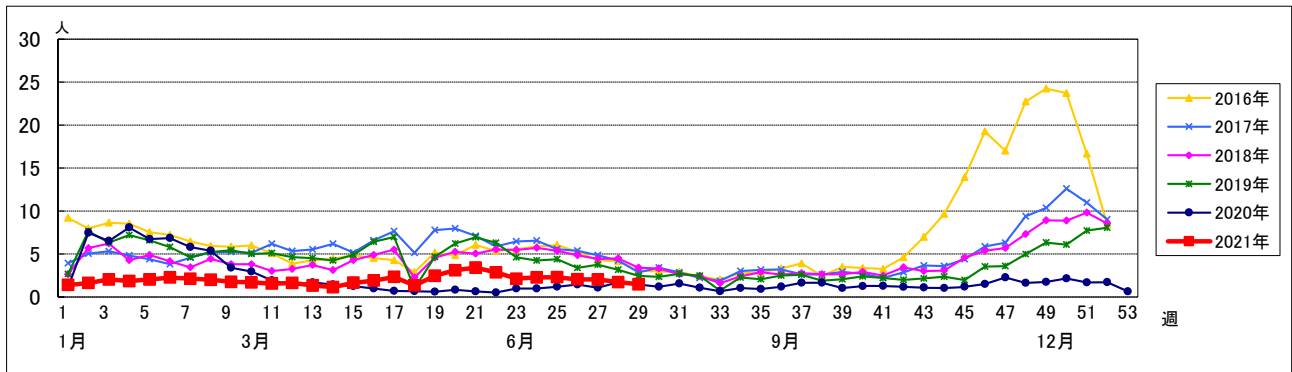
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第25週	6月21日～6月27日
第26週	6月28日～7月4日
第27週	7月5日～7月11日
第28週	7月12日～7月18日
第29週	7月19日～7月25日

1 RSウイルス感染症:5月頃より増加しています。第27週7.92、第28週7.73、第29週は4.62でした。



2 感染性胃腸炎:例年より低めの報告数で推移しています。第29週の定点あたりの報告数は1.47でした。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:3件	淋菌感染症	男性:17件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.66	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

7月期(2021年第25週～第29週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点60件、内科定点4件、基幹定点3件、定点外医療機関からは1件でした。

8月4日現在、表に示したパレコウイルス1型分離1株と、RSウイルス遺伝子15件、ヒトコロナウイルスOC43型遺伝子2件、ライノウイルス遺伝子2件、ボカウイルス遺伝子1件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第25週～第29週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	主要な臨床症状		
	上気道炎	下気道炎	肺炎
RSウイルス	-	14	1
ヒトコロナウイルス OC43型	1	-	1
ライノウイルス	2	-	-
パレコウイルス 1型	1	-	-
ボカウイルス	1	-	-
合計	4	14	2

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

7月期(2021年第25週～第29週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、侵襲性肺炎球菌2件、サルモネラ属菌3件、バンコマイシン耐性腸球菌疑い1件、過粘稠性肺炎桿菌1件、非定点から侵襲性肺炎球菌1件、非結核性抗酸菌(NTM)1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌11件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、侵襲性インフルエンザ菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ3件の検査依頼がありました。小児科定点からは消化器系病原菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第25週～第29週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (4)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15B型 (1)	
	基幹定点 サルモネラ属菌	3	<i>Salmonella</i> Litchfield (1)、 <i>Salmonella</i> Bareilly (1)、 <i>Salmonella</i> Narashino (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌疑い	1	<i>Enterococcus faecalis</i> (1)	
	過粘稠性肺炎桿菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	非定点 侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24B型 (1)	
	非結核性抗酸菌(NTM)	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)	
	腸管出血性大腸菌	11	O157 : H7 VT1 VT2 (2)、O157 : H7 VT2 (2)、O103 : H11 VT1(1)、O26 : H- VT1 (1)、O26 : H11 VT1 (2)、OUT : H- VT1 (1)、OUT : H- VT2 (1)、OUT / Og111 : H- VT1 (1)	
	保健所 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (2)	
劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)		
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ	3	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、不検出(2)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	消化器系病原菌	1	不検出 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】